

Letter from Kanji

親愛なるカナダの友人たちへ。

いつも、日加関係の発展を応援頂き、ありがとうございます。

今回は、先週、7月3日、大使公邸で行われた、サチコ・オクダ氏に対する「旭日単光章」授与式の模様をお伝えしたいと思います。

令和6年春の叙勲

まず、日本の叙勲制度について概略を記したいと思います。カナダには、カナダ勲章があります。1967年のカナダ建国100周年を記念して時のレスター・ピアソン首相の提言の元、創設されました。カナダに対し生涯にわたって功績を残したカナダ人を称えるものです。

日本の叙勲制度も、個人の功績や業績を国家が表彰するための制度として、明治維新による1868年の明治政府発足の後、整備されたものです。今般、サチコ・オクダ氏が受賞された「旭日単光章」を含む「旭日章」は、1875年(明治8年)4月10日に、日本で最初の勲章として制定されたもので、勲一等から勲八等までの8等級から構成されています。

そして、翌1876(明治9年)には、明治政府の外交顧問として活躍したチャールズ・ルジヤンドルと日本の国内法整備に貢献したギュスターヴ・エミール・ボアソナードが外国人として初めて勲二等旭日重光章を受賞しました。その後、1888年(明治21年)に「外国人叙勲内則」で運用が定められ、現在も基本的に踏襲されています。

日本国憲法第7条7号は天皇の国事行為の一つとして「栄典を授与すること」を定めています。天皇は、内閣の助言と承認のもとに国事行為を行うこととされているので、実質的決定は内閣においてなされています。天皇陛下の名のもとに勲章は授与されますが、これは日本国憲法に根拠がある訳です。それだけの重要性を持つものです。

そして、叙勲は、毎年春(4月29日：昭和の日)と秋(11月3日：文化の日)の国民の祝日に行われています。サチコ・オクダ氏は、令和6年(2024年)の春の叙勲ということになります。因みに、今般の外国人叙勲としては101名のうち女性は30名でした。

いずれにしても、今般のサチコ・オクダ氏が旭日単光賞を受賞されたことは、オタワの日本コミュニティにとっての誉れです。

サチコ・オクダ氏の功績

サチコ・オクダ氏は、1958年5月にモントリオールで生を受け、マギル大学で社会・文化人類学士、その後モントリオール大学院で図書館情報学修士を収められました。図書館司書として、カナダ国立図書館、連邦財務省・財務調整委員会事務局付属図書館、外務省、国際開発研究所付属図書館などで勤務されました。同時に、オタワの日系カナダ人組織で強力なリーダーシップを発揮されて来られました。

また、世界最大級の人材交流プログラムである「JET プログラム (Japan Exchange and

Teaching Programme) で 1992～93 年、神戸に派遣され、英語教育のアシスタントを務めました。実際に日本で生活したことは、現在の日本に対する理解を一層深めました。

日本政府は、サチコ・オクダ氏の主な功績として次の 3 点を高く評価しています。

第 1 に、日本とカナダの友好関係強化への貢献です。

サチコ・オクダ氏は、「全カナダ日系人協会(NAJC: National Association of Japanese Canadians)」傘下の組織である「オタワ日系協会(OJCA: Ottawa Japanese Community Association)」の理事として、1988 年から活動を開始して、2 度にわたり会長を務められました。オタワのみならずカナダ全体の日系人のコミュニティ活動、特に、文化交流において中心的な役割を果たしました。

例えば、オタワで毎年 12 月に行われている「餅つき大会」は、餅つき実演・販売、太鼓・民謡・空手演舞などのパフォーマンスを含む、日本文化紹介の絶好の機会となっています。

加えて、各種講演会や動画媒体による文化紹介も積極的に行っておられます。日系コミュニティの知的遺産を後世に語り継ぐ上で意義深いものがあります。

そして、重要なことは、これらの活動自体が日本とカナダの友好親善の強化に直結しているということです。

第 2 に、カナダにおける日本関連情報の発信への貢献です。

サチコ・オクダ氏は、1993 年以降 2020 年まで、育児のための時期を除き、オタワにおける唯一の日本に特化した月例ケーブルテレビ番組「コンタクト・ジャパン」の共同プロデューサー兼共同ホストを務められました。この番組では、日系コミュニティの各種活動を広く紹介するとともに、文化関連事業のプロモーションを行っています。

更に、オクダ氏は、講演者・会議司会者としても活躍。カナダで最大の来訪者を誇る「歴史博物館」で開催される「ジャパン・デー」の総司会を務めています。また、2018 年には、カナダ公文書館と OJCA が共催した「リドレス合意 30 周年記念イベント」では、モデレーターを務めました。

これらの活動は、カナダにおける日系コミュニティ及び日本に対する理解を大いに促進しています。

第 3 に、カナダにおける日系人の地位向上への貢献です。

現在、日加関係は非常に良好です。この背景には、カナダにおいて日系カナダ人の方々が勝ち得た尊敬と信頼があります。その契機になったのが、1988 年の「リドレス合意」です。マルルーニ首相と日系人リーダーのアート・ミキ氏によって署名され、第 2 次世界対戦中の日系カナダ人に対する強制収容や財産没収などの非道な蛮行対して、カナダ政府が公式に謝罪し、個人補償を含め日系コミュニティに補償を行いました。「リドレス合意」は、その後の先住民とカナダ連邦政府の和解のモデルになっています。

サチコ・オクダ氏は、この合意を目指したリドレス運動に積極的に参加し、日系カナダ人

コミュニティーのみならず、ユダヤ系コミュニティーや労働組合、人権活動家と連携し、合意達成に向け、大きな役割を果たしました。オクダ氏は、1988 年 9 月 22 日に連邦議会議事堂にてマルルーニ首相が公式謝罪する場に実際に招かれた数少ない日系人の一人です。

ボランティア活動

サチコ・オクダ氏については、上述の功績を超えて、個人のボランティア活動として、地元コミュニティーへも様々な貢献を行っています。特に、新規にカナダに移住した人々の中には、英語の能力向上を必要とする人もいます。そんな人々に、リドー高校やグロウサー高校で、ELD (English Literacy Development) のコースで教えています。英語を読み・話し・聴き・書く能力を身につけるのです。彼女の親身にして効果的な授業は、生徒たちの英語能力を向上させるだけでなく、カナダの社会でこれから希望を持って生きていく勇気を与えています。そして、生徒たちは、オクダ氏が完全なるボランティアで多忙な日々を送る中、時間を割いていることを知っています。そして、彼女への尊敬の念を深くしているといえます。

彼女のボランティア活動は、多岐にわたりますが、1995 年の阪神・淡路大震災の際には、オタワの赤十字に働きかけて熱心な募金活動を行いました。オタワ市民からの心のこもった義援金が被災された地域へ届けられました。カナダ市民の真心は忘れられることはありません。

松明は次世代へ

サチコ・オクダ氏は、上述の功績・活動の他にも、アイス・ホッケーやサッカーや自転車などスポーツ万能。正に、日本の旧制高校で言えば、文武両道のリーダーに相応しい人物です。そんなオクダ氏は、次の世代からの敬愛されている訳ですが、同時に、次世代を鼓舞しています。

7 月 3 日に行われた授与式は、正に、サチコ・オクダ氏の叙勲を祝福すると同時に、彼女が果たして来た大きな役割が着実に次の世代に引き継がれていくことの大切さを確認する機会となりました。100 人を超える親族・先輩・同僚・友人らが駆けつけて下さいました。大使公邸では、様々な会合やイベントも数多く行なっていますが、この日は本当に特別でした。日系コミュニティーの未来は大変に明るいと思いました。

主賓の挨拶を行なって頂いたのは、オタワ・ヴァニエ地区選出のモナ・フォーティエ下院議員・自由党院内幹事です。フォーティエ議員は、祝辞の中で、彼女は「インスピレーションの源泉」であり、日系コミュニティーのみならずカナダ社会の模範である旨強調しました。ELD のボランティア活動を通じた地元への貢献から日加関係の深化への貢献を高く評価されました。

日系コミュニティーの代表として挨拶された、メリッサ・カミバヤシ OJCA 会長は、正にオクダ氏から松明を引き継いでいる次世代の中心人物です。20 年を超える師弟関係が育んできたヴィジョンと信頼は極めて強固だと実感しました。

また、オクダ氏の御息女ミマさんと御子息アレックスさんの挨拶は、最も近い家族からの親密にして率直な言葉に溢れていて、多数の参加者の胸に迫りました。

乾杯の挨拶は、アンドリュー・カルドーズ上院議員。オクダ氏とは40年に亘り近しい友人関係にあり、1988年のリドレス合意達成に向け、手を取り合って協力したお二人と言います。

サチコ・オクダ氏は、「この叙勲は、自分ではなく、日系コミュニティ全員で受賞したものだと考えています」と述べられました。彼女の謙虚さを物語る言葉です。と、同時に、オクダ氏の意味は、必ずや次の世代に引き継がれ、一層大きな果実を生むと確信しました。

追加

実は、この叙勲式典の3日後、7月6日の土曜日には「Natsu Matsuri (夏祭り)」が開催されました。夏祭りは、20年前に始まりましたが、今回は、初めてオタワ日系協会(OJCA)とオタワ日系文化センター(OJCC)が共催して行い、一段とパワーアップしたものになりました。オタワのみならずモントリオールやトロントからも日本食、和太鼓、柔道、囲碁、よさこい踊り、JET 同窓会等々の多数の日系関係者が結集しました。パフォーマンスも充実し、1000人を超える来場者で一日中賑わっていました。極めて充実した日本文化イベントとなりました。首都オタワにおける日本文化を発信する中核的なイベントに成長する潜在力を感じさせました。

そして、そこには、優しく微笑むサチコ・オクダ氏がいました。彼女が牽引してきた、日系コミュニティの発展と日本とカナダの友好親善の深化を見守る姿が印象的でした。(了)